

もうすぐ春が来る。万物の生命が芽吹く季節の到来だ。世界中に春をたたえる歌は本当にたくさんある。詩人も作曲家も厳しい冬を越えて春を待ちわびる愛の歌を書く。まさに生命礼賛の調べだ。

生命の遺伝子は既に38億年前から存在し、以来、連綿と進化し現在のわれわれに至っているという。私たちすべての遺伝子が38億年の長きにわたり、途切れることもなく受け継がれてきたからこそ、われわれと、われわれが住む世界がある。

そして、人が人の遺伝子の暗号を解読できる時代になり、遺伝子レベルでは天才と凡人にほとんど違いがないという。何と人類は99.9%同じ遺伝子の暗号を持って生まれてくるのだそうだ。"才能より努力、ということわざに偽りはなかったわけだ。

また、人間は数多くの細胞

戦後最悪の人道危機に思う



で成り立ち、それらの細胞が共存している。いかに生命が尊く、排他主義が愚かな考えかがよく分かる。

分子生物学者の村上和雄先生とそんなお話をした数日後、世界が、第二次世界大戦の終結直後に国際連合が創設された1945年以降、最悪の人道危機に直面していることを知った。

今後半年間でナイジェリア、南スーダン、ソマリア、イエメンの4カ国で計2000万人以上が飢餓や食糧不足に直面する恐れがあるというのだ。国連は加盟国に対し、44億ドル(約5000億円)の支援を

要請し、国際社会にその切迫した状況を訴えた。

一方、子供たちの貧困はこの日本でも起こっている。両親の子供への虐待は年々増加し、親と離れて暮らさねばならない子供たちの入る施設や、人件費などの予算がまったく足りないという厳しい現実がある。

いかなる家庭に生まれた子供にも健全な養育環境を社会が用意する。実は今の日本に最も必要なことなのではないだろうか…。

(さとう・しのぶ 声楽家)

—毎月第3金曜日掲載

